

【森のお話】

…コラム…

高山植物に忍び寄る影

シカ分布拡大の脅威

森林総合研究所東北支所生物多様性研究グループ 堀野 眞一

東北地方には高山植物の美しい山がたくさんあります。それほど高くない山野にも花が豊富です。永く残していきたい自然の財産です。しかし、今これに対してシカの脅威が忍び寄っています。

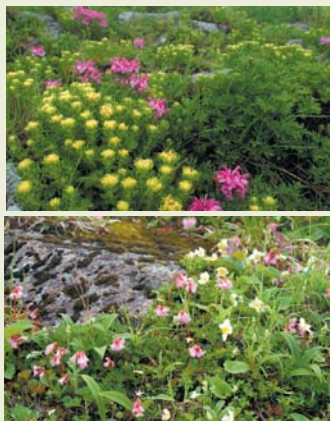
岩手県では昔から県南東部の五葉山一带（写真―1）がシカ生地として知られていました。このシカが県央東部を越えて県北へ広がっているのです。シカが進出した地域には高山植物の咲く山々が含まれます。その代表格、早池峰山は全国でも指折りの花の山であり、学術的にも地域文化の源泉としても計り知れない価値を持っています（写真―2、3）。もしこの山にシカが侵入して高山植物を食べ散らかすようなことになれば悲劇的な損害が生じます。でも、そんなことが実際あるのでしょうか。あるのです。東北以外ではいくつもの山でシカのため高山植物に回復困難な影響が出ています。南ア



写真―1 空から見た五葉山。

ルプス聖岳のニッコウキスゲ、日光白根山（写真―4、5）のシラネアオイ、尾瀬の湿原植物群落など…同じことを東北で繰り返してよいのでしょうか。早急に対応策を考える必要があります。

さらに、遠い将来にはシカが奥羽山地や日本海側の県へ侵入することもないとは限りません。いや、北上山地ならいざ知らず、雪の深い地域でシカは生息できないので



写真―2、3 早池峰山の高山植物。

は、と考える方もおられるでしょう。たしかに、雪がシカの侵入を防いでくれるなら好都合です。しかし、残念ながらそれはあまり期待できないようなのです。尾瀬にシカが生息するようになったことから、かなり雪深いところへも進出できると考えたほうがよさそうです。歴史をひもとくと、今はシカのいない男鹿半島や蔵王山麓にかつてシカが多数いて、十七、十八世紀には巻狩り一回で数千頭も捕ったという記録が残っています。雪の深い地方でも局所的には積雪の浅いところがあり、シカはそういうところで越冬できるのでしよう。

知らないうちに東北の山々でシカの喰い跡が目立ち、高山植物が消えていく、というのが最悪のシナリオです。そんなことが起きないよう、関係者が力を合わせてシカ監視網を作り、東北の高山へのシカ侵入を防がなければなりません。今なら間に合うのです。



写真―4 日光白根山で高山植物を食べるシカ。



写真―5 草本だけでなく樹木にも影響が出ます。日光白根山のシラビソ林では剥皮が目立ちます。